

信濃川大河津資料館友の会だより

バスツアー五十嵐川

7.13 水害から3年、そのとき五十嵐川は！？そして今は！？現在の復旧工事の状況など、特別に工事現場内にて担当者からご説明いただきます。また、五十嵐川が生んだ治水家「松尾与十郎」、漢学者「諸橋轍次」についても館を見学します。

日 時：9月12日（水）9：00～17：00
参加費：6,000円程度
定 員：30名
集 合：大川津ふれあいセンター、分水駅
行 程：①刈谷田川破堤現場→②五十嵐川破堤現場および改修工事現場→③三条市歴史民俗産業資料館→④漢学の里→⑤大谷・笠堀ダム
注 意：天候等により行程変更や中止する場合がありますのでご了承下さい。



刈谷田川破堤による浸水状況



五十嵐川破堤状況

大河津分水撮影会

「大河津分水」を撮影して“私の見た信濃川”写真コンテスト（信濃川河川事務所主催）に応募しませんか？インスタントカメラでもOK。講師より撮影テクニックなどを教わり、現地撮影会を行います。

日 時：9月29日（土）13：30～16：00
定 員：30名
会 場：信濃川大河津資料館2F、大河津分水
講 師：新潟県写真家協会副会長 友の会会員 平賀治雄さん
※カメラを持参下さい。
特記！：当日は中之島銭太鼓の皆さん、中条の剣舞の皆さんからモデルとして公演いただく予定です。



中之島銭太鼓の皆さん



中条の剣舞の皆さん

川の物語発表会参加者募集！！

川にまつわる歌や芸能、そして皆さんの川への想いや調査・研究など、ぜひご発表下さい！ご発表いただける方は同封の葉書に必要事項を記入しご投函下さい。皆さんのご発表をお待ちしています！

日 時：11月17日（土）10：00～12：00
会 場：信濃川大河津資料館2F 多目的ホール



昨年の川の物語発表会の様子

企画展 もし大河津分水がなかったら…新潟市街地編

「もし大河津分水がなかったら…」大河津分水完成前後の各地の写真等をふれあいパーク久賀美で紹介します。期間中は土日を中心に人工衛星データを使った越後平野地形閲覧体験会も開催します。

期間：10月6日（土）～10月28日（日）
会場：ふれあいパーク久賀美（道の駅 国上）

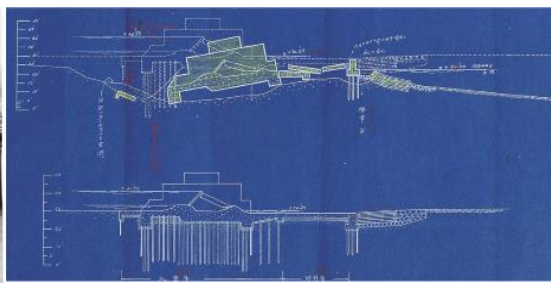


企画展の様子

企画展 日本で最初で最後の自在堰 —100年の大計 挫折と成功と恩恵—

1907年、時の内務大臣原敬の告示により大河津分水工事が始まりしました。15年の歳月を費やした大工事。1922年分水路に初めて水が流れます。そのわずか5年後の1927年、建設された堰の一つ「自在堰」が陥没します。設計図に込めた技術者の想いを感じてみて下さい。

期間：10月6日（土）
～11月25日（日）
会場：信濃川大河津資料館



写真左：第2期工事起工式の様子
（明治42年7月5日）
写真右：陥没した自在堰の測量図

資料館 講座 振り返る大河津分水—可動堰・洗堰嵩上げ

現在の可動堰と旧洗堰は昭和30年代に嵩上げされました。なぜ嵩上げされたのか？どのような工事だったのか？苦労談を交え当時工事を担当された方々からお話いただく座談会です。

日時：10月6日（土）14:00～16:00
会場：信濃川大河津資料館2F多目的ホール
定員：50名
ゲスト：宮下勇さん、森橋至さん、白倉与志司さん



洗堰嵩上げ工事

※講座への参加を希望される方は、同封の葉書に必要事項を記入の上ご投函下さい。なお、定員に達し次第締め切らせていただきますのでご了承下さい。

今号の可動堰

前号で紹介した、堰柱等を支える基礎杭工事（左岸側2基分）が完成しました。7月から9月まで工事が休止されていますが、低水路掘削工事は引き続き進められています。

なお、工事現場内にて新潟県中越沖地震による被害はありませんでした。

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。



右岸堰軸から撮影
（平成19年8月14日撮影）



右岸堰軸から近景を撮影
（平成19年8月14日撮影）

魚野川バスツアー探訪報告会

6月16日（土）、17日（日）に開催した“バスツアー魚野川”の報告会を7月7日（土）に行いました。バスツアーに参加された会員の皆さんが写真やスライドを紹介し、視察箇所の感想などをお話しました。



報告会の様子

双書発刊に伴う講演会

大河津分水双書第7巻「大河津分水と信濃川下流域の土地改良」の発刊に伴い、執筆者であり前館長の五百川清さんよりお話いただきました。大河津分水がもたらした恩恵と地域の方々の想い。また、それに応えた大河津分水工事の技術者の志。いつもと変わらぬ情熱の講演に参加された皆さんは耳を傾けていらっしゃいました。



講演会の様子

大河津可動堰見学ツアー

7月27日（金）に可動堰を見学するツアーを開催しました。現在の可動堰と建設中の新可動堰工事現場を見学し、可動堰の老朽化と新可動堰の基礎などをご覧いただきました。このツアーは毎月11月まで開催します。お申込み・お問い合わせは資料館まで。



見学ツアーの様子

子供講座 大河津分水凧揚げ大会

8月4日（土）大河津分水にて凧作り、凧揚げを行いました。全員の手作り凧が大河津分水に舞い、一緒に揚げた大凧も風に乗って見事な「大河津分水凧揚げ大会」となりました。



凧揚げ大会の様子

中越沖地震で被災された皆様へ

7月16日に発生した新潟県中越沖地震では、柏崎市を中心に多くの方々が被災されました。ここに慎んでお見舞申し上げます。

大河津分水でも、堤防に亀裂が入ったり、道路が歪んだりした箇所がありました。現在は復旧しています。

毎月第二土曜日は友の会の日！！

毎月第二土曜日に“友の会の日”を設けています。会員の方がゆっくり休憩できるようにお茶を用意しています。会員の方と交流の場となると思います。ぜひご来館下さい。

大河津分水関連書籍販売中！

五百川さん執筆による大河津分水双書1巻～7巻をはじめ、今秋には「越後平野の地形と地質」「信濃川の気象」が発行される予定です。いずれも資料館で取り扱っていますので、ぜひご覧になって下さい。



大川に架る渡部橋有難う

友の会会員 玉木 玉雄

信濃川大河津可動堰から日本海長岡市野積浜河口まで約 10km、信濃川分水路開通で昔の渡部集落は左岸右岸に分村され、燕市渡部の我が家は、左岸に位置して居ります。渡部橋を渡り右岸より下流を眺めれば天気の良い日は遠くに佐渡ヶ島が望めます。素晴らしい景色が見れます。橋さん有難う。

甲州、武州、信州、国境標高 2475mの甲武信ヶ岳を水源に持つ延長 367km の日本一の大河信濃川。「信濃から流れ来るので信濃川かなあ？」子供の頃は「三寸流れれば水晶の水」と親から聞かされ両手で大川の水を口にした、懐かしい思い出の大川。現在は水質・環境面から危険です、真似しないで下さい。

その頃の渡部橋は木橋で、昭和 20 年(1945 年)の大洪水で押し流されて行く橋材を見て寂しい思いをしました。その一面、信州から流れてきたのか、赤いリングが川岸に流れ着き何個か拾って家に持ち帰った楽しい思い出もあります。私の知る渡部木橋二代目は、昭和 23 年(1948 年)暮に完成。現在の永久橋の架け替え工事は昭和 37 年(1962 年)着工し、7 年の歳月と総工費 3 億 4300 万円をかけて、昭和 43 年(1968 年)11 月 1 日に完成式を挙行了しました。我々地元住民の長年の夢の橋が出来、信濃川大洪水にもびくともせず、交通止めもなく安心して日常生活が送れる。幅員 6 m、総長 380mの永久橋中央に立つと上流には夕暮れの岡の松林、下流には日本海を望む大川の自然の素晴らしい景色が眺められます。渡部橋さん有難う。



建設中の渡部橋橋脚



旧渡部橋(左)と新渡部橋(右)

※上 2 枚の写真は玉木さんより提供



中山堤防と十日町

友の会会員 滝澤 青葉

大正 11 年に大河津分水が通水した後、これより下流の蒲原地域では洪水被害が激減しました。しかし、私の住む十日町地域ではこの世紀の大工事の後も、たびたび訪れる大洪水に悩まされ、苦しんでいました。

古くは明治 29 年の横田切れのときも破堤し、昭和 20 年の大洪水のときも甚大な被害をもたらしました。もちろん堤防はあったのですが、現在のように立派なものではなく、川の規模に対してあまりに貧弱なものでした。

この大暴れ川、信濃川を何とかしようと立ち上がったのが昭和 21 年、中山龍次という方です。氏は同年、「信濃川魚沼治水会」という会を作り、信濃川の水害の惨状を「信濃川水害史」としてまとめ、国に新しい堤防を建設するよう請願しました。そして、翌々年の昭和 23 年より、まちを守る新たな堤防工事が着工したのです。

この堤防を作るときに、中山氏は「この前一番ひどい水害のあった中条村(現十日町市中条)から工事を始めてください。早く堤防を直さないと、また大洪水になったら中条村が最も困ることになるでしょうから」とおっしゃいました。

十日町の人はこの新しい堤防を、中山龍次の名をとって「中山堤防」と呼んでいます。この堤防が完成してから洪水被害は一度も起きていません。

次のご指名は山田司羅雄さんと酒井智之さんです。